



特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま

おひさま通信

VOL.22
2021年3月1日発行

特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下「おひさま」）は、1986 年以来活動をすすめてきた「すぎの子共同保育所」の保育実践をベースに新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと 2005 年 6 月 24 日に設立・認証された NPO 法人です。2016 年 4 月からは徳島市の認可を受けた「木のいえ共同保育園」の運営主体として様々な活動をしています。

おひさま通信は、会員や地域の方々と結ぶ機関誌として、おひさまの案内や報告、木のいえ共同保育園で過ごす子どもたちの様子などを掲載しています。



おっちゃんのとまと
おいしいなあ

新鮮な野菜を
いっぱいありがとう

かっこいいトラクターで
田んぼをつくってくれて
ありがとう



やぎさーん
田んぼするん？

はたけのおっちゃんやぎさん いっぱいいっぱいありがとうございました。

木のいえ共同保育園（旧：すぎのこ共同保育所）が、国府の土地に移転して 15 年を迎えようとしています。子どもたちが日々過ごす保育室から外を見渡すと、四季折々感じながら作物の成長を感じられるように願い、畑 & お米づくりに取り組んでいます。しかし、作物の育て方に未熟な私たちです。OB の春田さんのお知り合いでもあるハ木さんが「畑の師匠」となり、長年丁寧に教えてくださいました。ハ木さんは、いつも優しく手を差し伸べ、私たち職員の心にたくさんの作物を育てる修行の種まきをしてくださいました。『木のいえ共同保育園』木の看板の門をくぐり、作業着にキャップを被って笑顔で登場する姿に、子どもたちがいち早く気づき「やぎさーん！やぎさーん！」と歩み寄ります。ハ木さんのあたたかな手と子どもたちの小さな手が触れ合う、人々と繋がりが合える大切な時間でした。作物の成長で悩んでいるときに、必ず園に来てくださる…その時間が当たり前と思っていました。

しかし、突然の訃報…。みんなが大好きなハ木さんが…。園内に悲しみの涙が流れる日々。「ハ木さーん」と、空に向かって呼びかける子どもたち。長年保育園を支えてくださっていた感謝の思いがより一層募り、思えば思うほど寂しさが溢れます。今年の運動会…年長児の親子演技は『エイサー』、ハ木さんに感謝の思いが届くように…。ずっとずっと私たちの心の中で支えて続けて下さっていると思います。ハ木さんの撒いてくださった知恵や工夫を、少しずつ小さな芽…そして華に変えられるように日々取り組んでいきたいと思っています。これからも空の上から、包み込むように保育園を見守っててください。

新型コロナウイルスから学んだ 新たな保育

今年度は、未だにコロナウイルス感染が終息の気配も見られず、保育園でも毎年楽しみにしている行事を規模縮小など、コロナ禍での難しい判断に日々頭を悩ましている状況が続いています。しかし、例年の行事計画等を感染拡大防止の観点から見直すことで、また新たな楽しみ方を発見することもあり、何より子どもたちが安全に楽しく園生活を送れるよう工夫しながら、保育現場での楽しい生活習慣を模索する日々です。

集団生活をする子どもにとって『本当に幸せな日々を過ごす環境』とはどういうことをいうのか。今の基準で最善の利益を保障していきながら保育をしていくということ…、職員一同活動の原点に返り、話し合いを積み重ねてきました。

1 年前振り返ってみますと、緊急事態宣言登園自粛期間の家庭での過ごし方では、保護者の方々が様々な工夫をしながら毎日を過ごされてきたそうです。一緒にクッキングや散歩など、この期間保護者同士でも知恵や工夫を出し合いながら過ごしていたことを、のちほど聴けたことが何より嬉しく思いました。登園自粛という保護者にとっては過酷な状況を、家族と一緒にいられる喜びに変えていた子どもたちでした。

保育は、実質的なからだの触れ合い、群れること、近づき合うことなどがあって成立するものでもあります。社会への適応を、子ども自らが生活活動を通して学ぶ場です。ところがコロナ禍においては、この『密』をどう回避するかが問われました。子どもにとって友だちや大人たちなど、人のかかわりは健全な成長発達にはなくてはならないもののです。このような状況のなかで子どもたちの心身に影響を与えることなく、日常の保育内容をどのように保障していくかが課題となりました。今までの形も大切にしながら、何か方法はないかと模索し、発信方法も工夫してきました。

また、行事をどのように行うかということは、これまでにない大きな課題となりました。行事のための保育ではないことは当然ですが、行事を通しての体験や学びは子どもの育ちを支える重要な役割を果たしています。そこであらためて考えたのは、なぜ私たちはこれまでこの行事に取り組んできたのだかということです。今年は、一つひとつの行事の意義をあらためて職員間で確認し合い、どのようなかたちなら実施できるかを存分に検討し合う機会を得ることができました。今回紹介した“おまつり”もその一つです。日々の保育・行事も、保護者の方と一緒に考え、子どもの成長を共有・共感し合える大切な時間となっています。

このような社会状況でも、子どもたちに感動や喜びのプレゼントを…と足を運んでくださる地域の方々、保育内容に理解をして下さりご協力して下さる保護者の皆様に感謝申し上げます。これまで育んできた地域の方々とおたがな繋がり、子どもたち・私たち職員の支えと生きる喜びとなっております。今後も子どもを真ん中に、知恵や工夫の源を教えていただけたらと思います。今後もよろしくお願いいたします。



会員募集

共同子育て広場おひさまは、子育てが楽しくなる、子どもの目がいきいきと輝く活動に取り組みます。行事に参加できないにもかかわらず、おひさまを応援したいという方など、入会をお待ちしております。（入会金なし）

【年会費】★正会員：5,000 円 ★賛助会員：一口 1,000 円

【会員特典】★総会決議権（正会員のみ）★おひさま通信配布

★イベント割引（例：園開放通常参加費 大人 300 円⇒100 円）

寄付のお願い

随時寄付をお受けしております。

【会費、寄付振込口座および振込名義】

※平成 28 年 4 月より振替口座の番号が変わりました。

郵便振替口座 01620-0-101329

口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま



【発行】

〒779-3125

徳島市国府町早刈字雀ヶ原 218 番 6

TEL 088-642-5933

FAX 088-642-5935

NPO HP <http://npo-ohisama.org/>

NPO 法人共同子育てひろばおひさま事務局
（木のいえ共同保育園）

今もこれからも子ども達の笑顔と嬉しい楽しいのために ～ 新しいおまつりに挑戦 ～

1日目

①【おみこし】

いよいよおまつりが始まります！5歳児が作ったおみこしには、今年の収穫感謝と来年の豊作祈願をこめてみんなで育てた『野菜』を飾り、屋根には『四葉のクローバー』、おまつり当日の晴れを願って『てるてるぼうず』、4歳の時からイメージを広げて遊びこんできたみんなの友達『天狗』等、子ども達の今と願いを込めています。全園児で地域を練り歩き、元気な声をお届けしました。



②【だるまちゃんとてんぐちゃんの劇】

この機会に何か本物の文化に触れさせてあげることができないかと大人達で考えていたところ、いつも散歩で遊ばせていただいている地域の新宮神社さんから、天狗面と衣装をお借りすることができたのです。そこで保護者と職員で、子ども達が夢中になっている天狗の世界『だるまちゃんとてんぐちゃん』を題材に短い劇をすることにしました。目の前で繰り広げられる、楽しそうなお買い物の世界に引き込まれる子ども達。最後には、「保育園のみんなもおまつりで、お買い物楽しんでね～」と帰っていっただるまちゃんとてんぐちゃん。「みんなのお店にも来てくれたらうれしいなあ」「明日からも楽しみやな～！」「と、さらに明日への楽しみが繋がった1日目でした。

2日目

③5歳児【あそびコーナー】

★どんぐりのボーリング

景品は、果物の絵を描いたメダル。木に貼り付けて、果物の収穫のイメージにしました。翌日お店を回る時に商品と交換でメダルにシールを貼ってもらいます。「小さい子はお金が難しいかも」と、5歳児が考えて作りました。

★サイコロゲーム

各ゲームの景品の野菜や果物は、新聞を丸めたり色を塗ったりと親子で手作りし、各家庭でもまつりに向けての準備を楽しむ機会になりました。

★さつまいも掘りのくじ引き↓

★野菜の水やり輪投げ↓

～メダルの樹

様々な役割をこなしながら、小さいクラスの子たちを優しく遊びに誘う5歳児。

3日目

④1歳児【おべんとうぼこやさん】

1歳児もお店屋さんに初挑戦！絵の具をつけたどんぐりを転がして模様をつけた画用紙を、牛乳パックに貼り、葉っぱスタンプで模様もつけました。保護者に手伝ってもらい、どんぐりのボタンもつけて、フタも開きます。大人や友達と「いらっしやいませ～」をした経験が楽しくて後日のごっこあそびにつながっていききました。

①2歳児【おぼけの楽器やさん】

『おぼけのおんがくたい』の絵本の世界が大好きで、お散歩で枝やどんぐりを拾ってきて、ギロとカスタネットを作りました。模倣の達人の2歳児は、店員さんのまねっこもぱっちり♪品物と交換でシールをメダルに貼ってあげたり呼び込みをしたりと、お店屋さんごっこを楽しみ、買う側も「これください！」「ありがとう！」「と、「つもり」を持って買い物ごっこのやりとりを楽しみました。

③3歳児【ジュースやさん】

果樹園や園庭で収穫した、やまもも、きんかん、梅、シソでシロップ作りをした経験から、ジュース屋さんをすることに。園庭でも、葉やオシロイバナなどを見つけて、色水ジュースやさんを楽しむ姿に発展しています。

④4歳児【おべんとうやさん】

食材や調理方法などにも興味深々の4歳児。「お弁当やさんがしたい！」「やきいもおいしかった！」「魚のムニエル入れよう！」「きゅうりが入っているそうめんが好き」「ブロッコリーの下のところが甘い！」と、どんどん料理が決まりました。おにぎりの海苔は葉っぱ、どんぐりを梅に見立てるなど、イメージしたものを、自然物も使って形にしていきます。全園児分の大量のおにぎりとおかずをせせと作りながら、作ったそばから自分たちが先に試食して、「うん！おいしい！」と大満足♪当日は、1歳児が作ってくれたお弁当箱に、お客さんが選んだ食材を詰めてあげ、日の当たる廊下でピクニックしながらみんなでおいしくいただきました。後日の11月誕生会で、4歳児が考案した料理を実際に給食の先生が作ってくれ、自分のお弁当箱に詰めて大喜びでした♪



4日目

⑫【おやつバイキング&フィナーレ】

最終日は、ハレの日の特別おやつバイキング♪季節や風土等を食を通して感じてほしい、アレルギーのある子どももみんなで食べられるものがないかと、実行委員会です食をして、子ども達に伝えたい食文化について話し合った結果、
①鳴門産さつまいものフライ、
②徳島の食用藍粉を使った葉っぱの形の米粉クッキー+紅葉を感じられる米粉クッキー（パブリカ粉のモミジとカボチャ粉のイチヨウ）、
③お米作りの経験を広げるパットライス、
④地元産の柿、⑤徳島名物相生番茶に決定。
柿は目の前で実演しながら剥いたのでいつもよりも大人気♪
30個もの柿も売り切れ近況！
みんなで笑い合いながら食べることでできる何気ない日常のありがたさを振り返り、子ども達の育ちあいを支える環境を、人と人とのつながりの中で保障していきたいと強く実感しました。

⑪5歳児【おにぎりやさん（おやつ時間）】

園庭の田んぼで、苗代づくり・もみ撒きから始め、夏の毎日の水やりなど、たくさんの手間をかけ、大切に育ててきたお米。労働の大変さを感じ、目の前で成長を見守ることができるからこそ、より一層お米への愛情も増していききました。稲刈り、脱穀の間も、一粒残らず大切に食べたいと、落とさないように大事に精米までこぎつけました。初めて噛みしめたお米の甘いこと！「園のみんなにも食べてもらいたい」と、おにぎりやさんをするようになりました。育てた『サツマイモ』と、漬けた『梅干し』と『塩味』の3種類を考えました。会場の設営も、みんなで顔を見合わせて食べたいと、広く席をあけて、コスモスや前日にしたお店の看板や提灯なども飾り、楽しいお祭りの雰囲気になりました。収穫に感謝しながら、みんなでおいしくいただきました。

⑩【保護者の遊びコーナー】

★ヨーヨーつり

★箱の中身はなんだろう

箱にそっと手を入ると、ゴツゴツ？ポコポコ？「これは何!?」仲間とドキドキ相談しあいます。中身は、ブロッコリーやユズ等…。馴染み深い食材も、触覚からのアプローチで、さらに新しい魅力の発見につながったようです。